

# ◆スローガン 私たちが未来を変える ～安心社会に向けて～

## 活動の基調

### ◆はじめに

私たちは、昨年10月28日に第32回定期大会を開催し中間年度の大会として向こう1年間を展望した2021年度活動方針の補強を行い、取り組みを展開した。コロナ禍の影響が長期化するなか、労働相談の強化、愛知県をはじめとする県内自治体への要請行動、フードバンクと連携した取り組み等、増加する雇用問題への対応や生活困窮に陥った人々の支援に取り組んだ。

春季生活闘争では、コロナ禍の影響を大きく受け、賃金要求の見送り、一時金の減額など苦渋の選択を迫られるなど大変厳しい業種もあった。一方で自動車産業をはじめとする回復の著しい多くの構成組織では、中小労組が大手を上

回る賃上げを実現する等格差是正、賃上げの流れは本年も継続した。さらには、中止したイベントや少人数での開催等、開催形態を変更したセミナーなどもあったが、春季生活闘争総決起集会やメーデーなどの大規模集会をオンラインで開催し、コロナ禍における運動のあり方等も模索しながら取り組んできた。コロナ禍という難しい環境の中でも、連合愛知に集う仲間が相互に理解・協力することで運動を前進させることができた一年であったと受け止める。

今次大会では、これまでの活動を踏まえて2022～2023年度の向こう2年間を展望した活動方針を提起していく。

## ◆取り巻く経済・社会情勢

### ◆世界情勢と経済

コロナ危機の状況は、国や地域ごとの感染状況や経済対策の違いによって回復の状況は、大きくばらついている。いち早く回復した中国に続き、米国では、大型経済対策とワクチンの普及などによって内需が伸び、GDPの水準はコロナ危機前近くまで急回復した。一方で、欧州と日本は感染力が強い変異株の拡大もあり、感染症対策としての制限や自粛の影響によりマイナス成長となった。さらには、インドをはじめとする新興国では、変異株による感染拡大が継続しており、ワクチン普及の遅れが懸念されている。

また、米・中の覇権争い、長期化しているミャンマーのクーデター、不安定な中東情勢など引き続き世界情勢には、注視が必要な状況が継続している。

### ◆日本経済と雇用情勢

長期化するコロナ禍の影響による度重なる緊急事態宣言、まん延防止等重点措置を受けて行動制限や自粛も長期化と消費マインドの低下も相まってGDP成長率もマイナス成長に転じた。政府における雇用調整助成金の特例措置や休業支援金・給付金などの支援策が延長されるなか、製造業は中国や米国向けを中心とした輸出の回復を受けて底堅く推移する一方、非製造業は、人流の抑制に伴うサービス消費が大幅に減少するなど、業種・業態による回復の差が鮮明になっている。景気の持ち直しが明確化するのには、ワクチンの普及が進む秋以降との見方が大勢である。

また、雇用環境7月分として完全失業率は2.8%（前月比▲0.1%）、有効求人倍率は1.15倍（前月比+0.02倍）と僅

かに改善するものの、新型コロナウイルス感染拡大前に比べて落ち込みが続いており、コロナ禍が雇用環境に与える影響の長期化を反映した結果となっている。

### ◆日本の抱える課題

新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされた日本社会は、感染症による緊急時の対応や社会的なセーフティネットの脆弱さが露呈した。ワクチン接種の普及による感染症の終息とそれに並行した経済の早期回復、雇用の維持・回復が喫緊の課題となっている。コロナ禍の影響は、特に解雇・雇止めや収入減少など主に不安定な雇用で働く人々に強く及んでおり、コロナ禍の影響で解雇された労働者は11万人を超え（7月）、深刻な影響を受けた労働者の生活支援・就労支援をはじめとし、雇用環境の改善に取り組むとともに、社会全体のセーフティネットの強化が求められている。

急速に進む人口減少社会のなかで、超少子・高齢化や労働人口の減少、さらには格差の拡大など日本の抱える構造課題は山積したままであり、こうした課題に対しては、性別・年齢・国籍・障がいの有無に関わらず多様性を受け入れ、すべての人が活躍できる社会づくりが必要とされている。また、デジタル化やカーボン・ニュートラルをはじめとした社会や産業の構造変化が進むなかでSDGsの重要性が再認識されるなど、将来世代に希望が繋がる持続可能な社会に向けた取り組みが急務となっている。

東日本大震災から10年半、この間、熊本県を中心とした九州地震や各地での記録的な豪雨災害により、今なお不自由な生活を強いられている人々は多い。災害を風化させず、

被災地に寄り添い、復興・創生に向けた継続的な支援と共に、災害に強いまちづくりに取り組むことが求められている。

### ◆愛知県の経済と雇用の情勢

景気は厳しい状態が続く中でも輸出と生産は増加基調にあり、個人消費も全体としては持ち直しの傾向が見られる。一方で飲食・宿泊サービス等は、休業や営業短縮などの対応を取らざるを得ず、引き続き厳しい状況にある。

雇用情勢(7月分)として有効求人倍率は1.26倍、また、完全失業率は3%弱で推移するなど、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には及ばない状況にある。コロナ禍の長期化による企業収益の下振れや先行きの不透明感などから、雇用環境のさらなる悪化も懸念される。行政における民間企業に向けた様々な支援策が施行されているが経営基盤が脆弱な中小・零細企業に対しては、財政面や雇用の維持・安定に向けた途絶えない支援が求められている。

### ◆政治情勢

1月18日召集の第204回通常国会は、主に新型コロナウイルス感染症への国を挙げた対応策が審議された。今国会で政府・与党は、経済対策を含んだ新年度予算やコロナ対策の特別措置法改正案の早期成立をはかり、一方、野党側は菅政権のコロナ対策の遅れや政治とカネの問題を追及した。終盤国会では、欧米に大きく遅れたワクチン接種の問題や東京オリンピック・パラリンピック開催の是非など、10月に任期満了を迎える衆議院議員の解散・総選挙を睨んだ与野党の攻防が展開された。多くの国民が感染拡大防止策や生活や事業の支援に向けた国会審議の継続を望んでいたにも関わらず、政府・与党は6月16日に国会を閉会した。

新型コロナウイルス感染症に対して菅政権は、先々を見据えた対応を打ち出せず、繰り返し感染拡大を招いた。マスコミの世論調査では、国民の6割強がコロナ対策は不十分とし、また約7割が反対した東京オリンピック・パラリンピックの強硬開催なども相まって内閣支持率は下落した。

コロナ禍の長期化とともに苦境に立たされている人々は増え続けており、真に国民の命と暮らしを守る政策が切望されている。他方、繰り返される政治とカネの問題や国民不在の政治に歯止めをかける為には、働く者・生活者の立場に立った政治勢力の拡大による二大政党的政治体制の確立が求められている。

### ◆連合愛知における活動の基調

2020～2021年度の運動は、コロナ禍の影響を受け運動のあり方などの見直しを行ってきた。これまでの2年間

を踏まえ、with/after コロナを見据えた運動にしていかななくてはならない。この間進めてきたWeb環境の整備をさらに進め、オンラインでの対応など誰もが参加しやすい運動に切り替えていく必要がある。進展するデジタル技術の活用によって、運動の効率化を進める一方で、労働者が団結し、組織としての影響力を正当に行使する労働組合としての基本的な行為を意識した運動を進めていかななくてはならない。

私たちは、連合結成30周年を契機に掲げられた「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」といった社会像を具現化し、持続可能な社会、互いに認め合い誰一人取り残されることのない包摂的な社会をめざし、運動を展開していく。

具体的には「まもる・つなぐ・創り出す」を主要な運動の柱とし、他の項目で運動の下支えと補完を行い、私たちがめざす社会の実現に向けて取り組んでいく。

「まもる」では、曖昧な雇用で働く人をはじめ弱い立場の労働者を一人でも多くまもるための仲間づくりとともに、働くことで困っている労働者の相談に一人でも多く対応することなど、「第8次組織拡大中期計画」の実践と丁寧且つ親身な労働相談対応に努めるとともに、働く仲間同士の連携をはかり、すべての働く仲間をまもる取り組みを進めていく。

「つなぐ」では、地域の社会福祉運動をサポートするための助け合い運動や各種NPOとの連携に注力するとともに、働く仲間を元気にするための地域の盛り上げや災害時の早期復旧に向けた地域との関係づくりなど、働く仲間を地域社会でつなぐ取り組みを進めていく。

「創り出す」では、男女間における格差や様々な不平等の解消、差別やハラスメントの撲滅のためのジェンダー平等参画推進計画「ACTION PLAN AICHI-IV」を着実に進める。また、誰もが安心安全に働ける環境整備や労働条件の維持・向上に向けた取り組みに注力するとともに、誰一人取り残されることのない社会の構築に向けた政策実現に努め、安心して暮らせる社会・職場を創り出す取り組みを進めていく。

これら運動の土台として、次代を担う人材の育成と働く仲間・生活者の代表として運動を進めるための社会的発信力の強化、新政あいちとの連携により政策実現力の向上などの取り組みを推進していく。

私たちは、コロナ禍で様々な不条理や困難に向き合ってきた。予測が難しい変化が起こりうる今日的な環境下にあっても、その時々課題に的確に対応しながら、社会から認められた存在としての役割の発揮に努め、運動の前進をはかっていかなければならない。連合愛知、構成組織、地協が一丸となり、将来に希望の持てる持続可能な社会をめざして運動を牽引していく。